

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度未成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
総合企画部	式典や行事の円滑な企画・運営	実施要項・内容の充実	・各種の式典・学校行事での役割分担と業務内容を明確にする ・オープンスクールの実施方法・内容について検討する	・各行事で職員の協力の下、スムーズに運営できるよう、早期の立案を心がける ・オープンスクール開催は年2回とし、専攻科についても検討し、実施する	・各種行事計画の変更や縮小をせざるを得なかったが、臨機応変に対処できた ・オープンスクールは従来の実施方法に加え、今後はWeb開催も有効である	A	・各種行事の実施方法の多様化に伴い、柔軟に対応することが必要である	○GSfEを活用して学習指導を行うなど、ICTを活用する教育態勢を整えつつあったが、生徒の通常登校開始と共にその活用が減っている。今後、どのように進めていくか →令和3年度より全教室のWiFi環境が整う。学校のタブレットを活用した授業に加え、授業で生徒個人のスマートフォンを活用して効果的に学習を進める授業展開についても議論を深めていく
	広報活動の充実と各種団体運営の活性化	広報資料・方策の工夫	・Webページにおいて、迅速で正確な情報発信につとめ、ニーズに応えられる内容にする ・地域社会や中学校から適正な評価を得られるよう、広報を充実させる	・学校紹介資料としてWebページの広報内容を精選し、年20回以上更新する ・報道各局への取材依頼に努めるとともに、年5回以上地域や中学校への情報提供を行う	・情報担当者の尽力により、学校紹介のWebページの更新が頻繁に行われた。学校行事の様子等を伝える内容を充実させた。閲覧が年々増加していることから、さらなる工夫が求められる	B	・Webページはできれば毎日更新することが望ましいが、可能な限り実現を目指したい	
		育友会・同窓会・榛生会事務局運営の円滑化	・各団体と良好な関係を保ち、誠実な事務局運営に努める ・創立百周年記念行事に向けて、各分野の記念事業の内容を検討する	・各団体と良好な関係を保ち、学校理解・支援のネットワークを作る ・創立百周年記念校内企画委員会の役割分担と業務内容を定める	・育友会役員会の回数が減り、学校行事も中止となったため十分に活動いただけなかった ・百周年記念事業の年次計画が立てられたが、具体的な内容については未定の部分が多い	C	・同窓会や百周年事業について、学校側がどの分野をどれだけ援助するかを明確にしておく	
教務部	基礎的な知識・技能の習得と定着のため、着実な学力向上をめざす	教育課程の実践と編成	・現教育課程を有効に実践する ・新教育課程に向けての研究と編成をする ・情報科の教育課程編成に向けて、調査研究を重ねる	・「わかった」と実感できる生徒の割合を80%以上をめざす(アンケートの活用) ・新教育課程案を編成する	・「わかる」と感じる生徒が80%を超える教科はなかった。半数の教科で60%以上の生徒が「わかった」と実感している ・宇陀高校の普通科(人文科学科)の教育課程はほぼ完成した。今年度中に情報科(情報科学科)の教育課程を完成させる	B	・生徒にとって、自分の努力と理解度に差がある。努力の実感と理解の実感が近づくと、積極的に取り組めるようになると思われる。習熟度別の自習課題の開発を進める。	○今年度の学習成績の評価はどのように行ったか。 →在宅期間中の学習については評価が困難であった。1学期の成績評価は、1・2年生には期末考査の点数を、3年生には仮の評価を算出して提示した。2学期末には、1・2学期をとおしての総合評価を提示し、学年末には1・2学期の総合評価を2倍したものに3学期の評価を加えて算出し、極力客観性を担保した
		授業の工夫と教材の開発	・「学び直し」や「授業の工夫」「ICT機器の有効活用」「在宅教育の進め方の研究・実践」によって、一人一人の生徒の力を最大限に伸ばす取組を、全校体制で進める	・各教科で工夫した取組を全体で共有できるようにする(授業公開の活用) ・ICTの有効な利用について研究し、実践する	・classroomやyoutube・meet・FORMS等、一気にICTの活用が進んだ。また、生徒への周知もかなり進んだ。 ・一方、通常授業に戻ってからは、積極的な活用が減ってしまった。学校における学習活動に、「新しい」ツールをもっと活用していきたい	B	・生徒が、スマホではなく、タブレットやPCが使えるようにする ・教科情報やHRで、classroomやFORMSの説明や活用等に取り組む ・今後、小中学校でICTに慣れ親しんだ生徒が入学してくるので、本校の教員も研修をし、ICT活用力を向上させる必要がある	
		学ぶ態度と活用する力の育成	・研究授業や研修講座への参加を通じて、教科指導の実践力の向上に努める ・授業を中核にし、小テストや課題なども活用して、生活及び学習サイクルの定着をめざす	・全教員が、授業交流・研究授業・研修講座のいずれかに年5回以上参加する ・教育研究所の研修講座、New Education Expo等、校外での研修も活用する	・生徒理解や、国人生徒に対する研修は進んでいる。 ・授業研究やICTの活用に関する研修は減ってしまったように感じる。	B	・リモート研修に参加しやすい校内環境を整備する必要がある	
		学習支援の充実	・学習支援・特別支援を必要とする生徒に対し、学力向上支援員・特別支援教育支援員とともに丁寧に対応する	・「わかった」と実感できる生徒の割合が80%以上となるよう努める(アンケートの活用)	・3年生全生徒が追認考査を実施することなく、卒業が決定した。 ・1年生・2年生についても、支援員の学習補充により、支援の必要な生徒も学力を身に付けてきている。	A	・コミュニケーション能力が学習の源となるので、まず、教員がその研修をする。(易しい日本語等)	
進路指導部	未来の展望をもち、確かな自己を大切にしながら社会に貢献できる人物の育成を図る	自己分析と成長	・自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、社会に貢献できる生徒を育成する ・そのためにSSシート・進路講演会や学年集会・個人面談などを通して自己を知る機会を提供する	・毎学期、学年進路集会を1回実施するとともに、講演会や講座なども1回開催する ・SSシートには具体的に毎日の目標を記入させる	・1学年は、キャンパス見学会の代替として進路相談会を実施 ・2学年は進路相談会などを複数回実施し、より具体的に進路目標を定めるきっかけとした ・SSシートにはほぼ毎日一言を書かせることで担任とのコミュニケーションを図ることができた	B	・次年度はキャンパス見学会や進路相談会を実施し、自己を見つめ生き方を考えさせたい ・SSシートに目標欄を設け、毎日の目標を設定し自己を見つめさせる ・大学入学共通テストの情報提供	○コロナ禍での進路指導をどのように進めたか →1学期の6月までは学習課題の提供に止まったが、7月以降、感染予防対策を十分に行い、進路指導部と学年が連携して生徒への支援・助言を行った。面接指導、履歴書作成指導、応募前職場見学、学力養成講座等を、例年以上に計画的かつ緻密に実施することで、就職決定率、進学決定率の両面でほぼ100%を達成することができた
		基礎学力の確立、向上と基本的マナーの養成	・四則計算や割合、漢字の読み書きなど義務教育範囲の基礎学力を確立する ・生徒指導部と連携をとり、服装、挨拶、敬語など社会人としての常識や基本的なマナーを身に付けさせる	・OneWeekトライアルを授業中に展開し考査範囲に含めることで、学習意欲を高め基礎学力の確立に努める ・服装、敬語などは授業や講座以外の場面でも指導していく	・SSシート復習プリントは実施できなかった ・OneWeekトライアルは数学、国語、英語の学習課題とした。 ・基礎力診断テストを実施 ・挨拶、服装、敬語など基本的マナーに関して面接指導や学校生活の中で指導し就職試験、進学試験で好評価を得た	B	・SSシートやone weekトライアル、その他の教材を利用し、漢字の読み書きと計算問題を中心として一般常識を身に付けさせる ・基本的マナーに関して先生方の協力の下、より一層指導する ・面接指導は、3年生4月より開始する	
		各種検定試験、模擬テスト受験の推進	・漢字、英語検定の受験を軸に看護模試や数学検定など各種検定を受検することで基礎学力の定着を図る ・学習に対する動機付けや自己肯定感の育成とする	・漢字検定および英語検定3級以上の合格者を40人以上とする ・看護模試や各種検定の延べ受検者数を150人以上とする	・漢字検定は2、3年生合わせて約270名が受検、結果はまだ出ていない	B	・各検定について受検者をさらに募ると共に事前学習の充実、課題の提供で実力を養成したい ・国語科以外の授業教材も積極的に取り入れたい	
		インターシップ、各種セミナー参加の奨励	・インターシップに参加する中で、自己を磨き自己実現の機会を与え、職業観の育成および自己を知る手立てとする ・看護セミナーや美容師体験など様々なセミナーを提供し、体験しながら自己実現を図る	・インターシップの参加者を5人以上とし、事前、事後指導も充実させる ・各種セミナーを年3回実施する	・インターシップ参加者は夏は中止、冬は1名参加 ・看護セミナーを8月に実施予定であったが中止 ・卒業生による就職セミナー(先輩の話聞く会)を8月に実施予定であったが中止	C	・インターシップ体験をする中で職業意識を高める ・看護セミナー以外にも生き方を学べるようなセミナーを実施したい ・卒業生による就職セミナー(先輩の話聞く会)は3年生には良い刺激になるので実施をしたい	